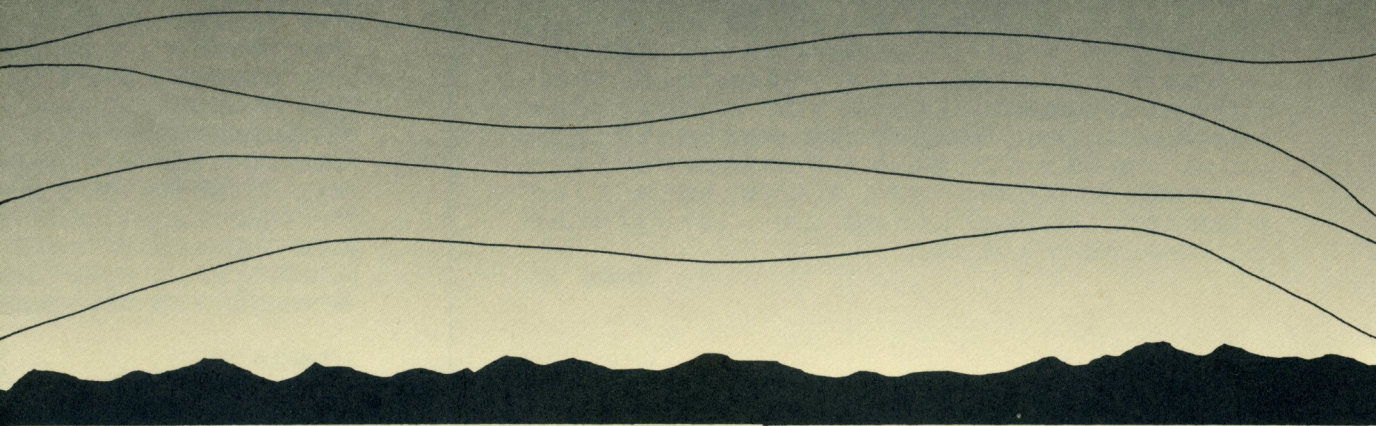


グスタフ・マーラー  
交響曲第2番「復活」



## ごあいさつ

本日はお忙しい中、私ども水星交響楽団の演奏会に御来場頂き誠にありがとうございます。当楽団は昭和59年に一橋大学管弦楽団の若手OBによって結成され、その名前は、宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」に出てくる「金星音楽団」と一橋の校章・マーキュリー(水星)に由来します。

さて、今回の演奏会では、マーラーの交響曲第2番「復活」をとりあげてみました。この曲が決まった時、団員の間からは時期尚早だという意見もありましたが、それよりもこの曲を演奏したいという熱意の方が強かったのです。その熱意がステージで発揮されるでしょうか。どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

最後に、いつも熱心に御指導下さる指揮の斉藤栄一先生、二人のリストの方々、東京ライエンコーア、武蔵野合唱団の方々、そしていつもお世話になっている一橋大学管弦楽団の皆様深く御礼申し上げます。

水星交響楽団委員長 茂本直人

### ●指揮者 斉藤栄一

1978年 京都大学文学部卒(卒論のテーマは「ベートーベンの弦楽四重奏曲第59における形式の研究」)。

1980年 国際基督教大学大学院博士課程満期退学(修士論文のテーマは「アルブレヒト・デューラーと自画像」)。

現在 明治学院大助教授・水星交響楽団常任指揮者。

斉藤氏は紳士であり、助教であり、常任指揮者であり、子持ちである。一方我々は、中流であり、ペーペーであり、団員であり、中には単なるヨッパイもいるような楽団である。

り、ペーペーであり、団員であり、中には単なるヨッパイもいるような楽団である。

このように、どこから見ても共通点のなさそうな斉藤氏と我々だが、実はいくつもある。

第一に、酒が好きだ。水星交響楽団、略して「水響」の名は、実は「酔狂」ではないかという説がある位である我々が飲むのは当然としても、斉藤氏も我々には負けない酒飲みである。しかも酔って乱れず、常に涼しい顔をされている。アルコールに強いことでは氏は神格化されており、国立近辺では手のひらに、「栄」の字を書いて飲むと二日酔いしないという説がまことしやかに流れているとか。

第二に、やりたい曲はやらないと気がすまない性質である。斉藤氏と我々は学生だった頃からやりたい曲があると、すぐさま有志を募ってオケを結成し、演奏会を開いてきた。オケといってもその場限りの週末オケだし、演奏会といっても聴衆よりオケメンの方が多いようなアンガラ演奏会であるが、やりたい人間が集まってやる演奏会である。そこらの「やりたい曲は他にあるけど決まっちゃったものは仕方ない」的演奏会よりは面白い演奏会であつたらうと自負している。「水響」は基本的にこの週末オケアンガラ演奏会の流れをくんでいる。このような関係である限り斉藤氏と我々は、悲しい別離を経験しなくてすむだろうと私は思う。ヘタに別れたりしたらお互いにストレスがたまって困るだろうことは容易に想像できるからである。

(中提琴 記)

## プログラム

### グスタフ マーラー

#### 交響曲第2番ハ短調「復活」

#### 「復活」～ 作曲者自身のプログラムより

「次にくるのは何か？生とは何ぞや？死とは何ぞや？何故お前は生きたのか？何故お前は悩んだのか？それはすべて大きな恐るべき冗談に過ぎなかったのか？我々の生と死は何らかの意味をもっているのだろうか？」

「我々が生き続けるとするならば、何らかの方法でこれらの疑問に答えなければならぬ。私は終楽章においてこの答えを出すつもりだ。」(マーラー自身の一楽章に対するプログラムより)。

前作の主人公「巨人」(マーラー自身標題が重視されるのを望まなかったが)に対する葬送として書き始められた「復活」の一楽章は、元来標題通りの意味での単独の交響時でもあった。近年譜面も出版され、録音もなされているが、それは今日演奏される交響曲の一楽章と比較するとかなり多くの点で相違が見られる。すなわちマーラーは五楽章の交響曲の一楽章として使用するにあたりかなり手を加えているのだ。もちろん楽曲完成後に更に入力するのはマーラーの常であったが、先に挙げた自身のプログラムにも示される様に全五楽章の有機的な関係を念頭に置いた加筆であったと言って差し支えなからう。そうした加筆を経てすら、マーラーは巨大な一楽章と二楽章以後の連続性に不安を抱き、わざわざ一楽章の後、5分間の休憩を要求している。確かに「葬送」である一楽章と「復活」を高らかに歌いとげる終楽章の巨大さに比較して、夢見るようなレントラ——それは亡き人の生前の想い出でもあるのだが——と、歌曲集「子どもの魔法の角笛」からの引用であるスケルツォ——それは彼独特のアイロニーに満ちている——と「原光」からなる中間三楽章の性格はグロテスクなまで異なると言っても過言ではあるまい。

巨大な終楽章は、先に挙げたプログラム中の疑問に再度立ち向かう事から始まる。「最後の審判」の恐怖がのしかかり、大地は震え生きとし生けるものはその終末を迎えるのだ。「貴しきも富めるも、農民も国王も巨大な行列となつて行進してゆく。聖堂は司教や教皇でいっぱい。全ての者が同じ怖れを抱き震えている。神の目から見れば、正しい人間は一人もいないのだから。」(マーラーのプログラムより)そして天啓のラッパが鳴り響き、地上が静寂につつまれる時、「死の鳥」のさえずりが虚空に響き渡る。「復活せよ、汝ら復活せよ。」——単なる一個人の死を象徴して開始された交響曲は、ここに至った普遍的な神の栄光によって万物までも愛につつまれ、永遠に解き放つのだ。

～交響曲第2番～

作曲 1888年～1894年 1903年と10年に改訂。

- ・初演 ① 最初の3楽章 1895年3月4日作曲者自身の指揮 ベルリンフィル。
- ② 全曲初演は1895年12月13日同じく作曲者指揮ベルリンフィル。

### 蜂谷幸枝 (はちやゆきえ・ソプラノ)

東京芸術大学及び同大学院ソロ科卒業。1977年、西ドイツ政府給費留学生として同国立シュツットガルト音楽大学に留学。シルビア、グステイ、コンラート・リヒター、ウタ・クッターに師事。ウルムの教会コンサート、ドイツ・リート会等に出演。

1979年 ヒューストン市立大学に学び、エレーナ・ニコライエに師事。米国TV出演し日本の歌を紹介。1981年帰国。読売新人演奏会に出演し、「第九」「メサイア」「天地創造」「四季」「戴冠ミサ」「ドイツ・レクイエム」「レクイエム(フオーレ)」「コーヒー・カンタータ」等の独唱者として幅広く活躍。オペラでは、スザンナ、ミカエラ、パミーナ、カツツァニーガ作「ドン・ジョバンニ」(ドンナ・アンナ)、「メリー・ウィドウ」(シルヴィア)等に出演。また、ドイツ・リート、日本歌曲にも大変造詣が深い。1979年(ヒューストン)、1983年、1985年(東京)、1988年(マスカット)にリサイタル開催。NHK「午後のリサイタル」「フレッシュ・コンサート」に出演。中山椋一、林ひろみ、嶺貞子に師事。二期会会員。日本フーゴ・ヴォルフ協会同人。ぐるーぷなべ会員。東京芸術大学非常勤講師。

### 渡部せつこ (わたべせつこ・アルト)

東京芸術大学声楽家卒業。中山椋一氏、原田茂生氏に師事。「ヴォルフ連続演奏会」「プラームス歌曲の夕」「カシニッツの4つの歌(初演)」などの歌曲出演のかわらオペラでは、二期会「利口な女狐の物語(おんどりかけず)」でデビューし、以来、「ローエングリン」(貴婦人)「カーチャ・カバンヴァ」(フルキユーレ)「ヴァルトラウテ」に出演。又、日本オペラ協会では「天守物語」(織入)「死神」(女房)「三人の女達の物語、第一話」(奥方)、東京オペラプロデュース、「サロメ」(小姓)「黄金の国」(はつ)、サンシャイン劇場「カルメンシータ」(カルメン) 役など数多く出演。

又、「第九」「メサイア」「オラトリオ」「カンタータ」等のアルト・ソロを務め日米現代音楽祭など各種コンサートに出演。

二期会会員。

# メンバー表

・指揮：斉藤栄一

・副指揮：田中一嘉

・コンサートマスター：福島秀成

## 1st Violin

磯田誠一郎  
今井あつし  
岡本 康弘  
岡本 由紀  
尾崎 正峰  
熊野知佳子  
小林 昭寛  
佐々木 雄  
佐藤 克美  
中村 耕三  
田端 雄一  
野村 国康  
○福島 秀哉  
藤山 正彦  
松林 俊  
馬男木美延  
南 咲子  
矢野 靖子  
吉野 直樹

片山 朝子  
北 由美子  
佐久間陽子  
中里 剛  
福地由樹子  
松永有美子

## Viola

川俣 英男  
古藤 朝子  
新保 博保  
小滝 哲  
小久保満希  
西本 幸子  
斉藤由美子  
西田 実  
山田 治生  
塚本 晶  
福原 明彦  
清宮美稚子  
柳 勝己  
藤岡 知之  
土屋 哲夫

## Violin Cello

菅田 克彦  
大場 進  
橋 温子  
中山 憲一  
山田 昭夫  
中山佐知子  
橋本 英子  
高橋 和弘  
辰川 敬子

永田 賢祐  
鈴木星太郎  
辻 高弘

## Contrabass

○大西 功  
花田 信彦  
杉浦由美子  
松下 美香  
田中 一弘  
北川 純子  
小川 真人  
林田 健  
今林 大智

## Harp

栗原真紀子  
山畑 松枝

## Flute & Piccolo

本田 洋二  
矢引由希夫  
甲地 真美  
関根 文子  
松田かよ子

## Oboe

前田 正宣  
塚越 茂  
下田 肇  
小出 裕之

## Clarinet

西村 伸吾

辻 信一  
村上 康  
横地 篤志  
岡坂 博宣

## Fagott

菅 恵子  
富井 一夫  
安田 圭介  
渡辺さつき

## Horn

金井 隆男  
東森 智史  
本田 文男  
柿田 浩之  
日下部朋久  
井浦 敬  
山形 尚世  
増村 正之  
石田 京子  
柿沼 点  
福浜 守

## Trumpet

北村 和弘  
山本 陽文  
伊藤 宏一  
茂本 直人  
福島 宏樹  
奥村 達也  
井原 和宏  
草本 大輔  
七沢 浩孝  
皆川 裕作

## Trombone

内山 正純  
寺島 良房  
野添 智子  
高橋 康昭  
伊藤 幸宏  
福澤 親

## Tuba

植松 隆治

## Percussion

石橋純一郎  
高橋 淳  
中尾 友子  
山本 勲  
湯川 隆一  
横田 麻子  
吉村 恵一

## Organ

斉藤 豊

合唱  
東京ライエンコーア  
(合唱指導=郡司 博)  
武蔵野合唱団

## お知らせ

一橋大学管弦楽団 サマーコンサート '89

ヒンデミット 「画家マチス」他

指揮/小田野宏之

1989年7月1日(土)

武蔵野市民文化会館

## ●副指揮 田中一嘉

1953年、東京に生まれる。1972年、桐朋学園大学音楽学部に入學し、指揮を故 斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。またコントラバスを江口朝彦、堤俊作の両氏に師事。桐朋学園在学中には、同大オーケストラ演奏会に指揮者及びコントラバス奏者として参加。また、日本オペラ協会、長門美保歌劇団の副指揮、東京アカデミー合唱団の指揮者として数多くのオペラ、合唱曲、特に宗教音楽分野での実績を積む。1976年の第4回民音指揮者コンクールに入賞、同時に奨励賞も受賞。桐朋学園大学を卒業後は、東京交響楽団、京都市交響楽団、東京校成ウィンドオーケストラ、大阪フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、新ヴァイヴァルディ合奏団等を指揮する。現在、昭和音楽大学の講師を務めるとともに、藤原歌劇団を中心として、多くのオペラを手がけている。

## ●合唱指導 郡司 博

指揮法を山田一雄、ハンス・レーヴライン氏に師事。オーケストラ付大曲をうたう大合唱団を各地で数多く指導し、その指導力は高い評価を得ています。また、文化庁派遣講師をつとめ、東北から九州まで広範囲に活動し、各地の合唱団に客演指揮者として招かれています。東京ライエンコア常任指揮者。ほかに新皇日響合唱団、東京オラトリオ研究会、東京都響創立20周年記念合唱団、茨城県南フィルハーモニー合唱団、新宿区民第九合唱団、長野松本混声合唱団、合唱団「けやき」の指揮者を務めています。

## ●東京ライエンコア

当合唱団は、昨年まで「三多摩市民合唱団」の名称で設立以来9年間、数多くの皆様のご声援に支えられて、今日まで16回の演奏会を開催することができました。

本年で創立10周年を迎えるに当たり、このたび、団名を「東京ライエン・コア」と改めました。ライエンとは、宗教上の聖職者に対するひら信徒を意味しており、音楽的にはプロフェッショナルではありませんが、精神的、内容的には高い水準を目指そうという希望をこめて命名いたしました。モーセがイスラエルの民を率いてエジプトより乳と蜜の溢れる理想のカナンの池を目指して荒野を渡ったように、私たちは新たな音楽活動の創造に向けて、いま「出エジプト」したのです。

## ●武蔵野合唱団

1955年武蔵野市で結成。64年第1回定演。65年より、小林研一郎氏を常任に迎え、現在団員数約200名の都内有数の合唱団に成長。都響、東響、日フィル等国内オーケストラの定演での共演をはじめ、「題名のない音楽会」(テレビ朝日)、「音楽の広場」(NHK)等、テレビ、ラジオにも多数出演している。

1977、80年には小林氏に率いられ、アマチュアとして初のハンガリー演奏旅行を行い、本年7月にも第3回のハンガリー演奏旅行予定する等、意欲的な活動を行っている。

# 「復活」 歌詞対訳

## 4.Satz

### AUS „DES KNABEN WUNDERHORN“

#### Altsolo:

O Röschen rot!  
Der Mensch liegt in grösster Not!  
Der Mensch liegt in grösster Pein!  
Je lieber möcht ich im Himmel sein!  
Da kam ich auf einen breiten Weg,  
Da kam ein Engelein und wollt mich  
abweisen.  
Ach nein, ich liess mich nicht abweisen!  
Ich bin von Gott und will wieder zu Gott!  
Der liebe Gott wird mir ein Lichtchen  
geben,  
Wird leuchten mir bis in das ewig selig  
Leben.

## 5.Satz

### NACH KLOPSTOCKS HYMNE „DIE AUFERSTEHUNG“

#### Chor und Sopran:

Auferstehn, ja auferstehn, wirst du,  
Mein Staub, nach kurzer Ruh.  
Unsterblich Leben wird, der dich rief, dir  
geben.  
Wieder aufzublühn wirst du gesät!  
Der Herr der Ernte geht und sammelt  
Garben  
Uns ein, die starben.

## 第4楽章:

「子供のふしぎな角笛」から

#### アルト独唱:

おお、くれないの小さなバラよ！  
人間は大きな苦難に横たわっている！  
人間は大きな苦悶にとざされている！  
むしろ、わたしは天国に居たいと思う！  
わたしは一つの広い道にたどりついた。  
するとそこにひとりの天使がやってきて、わ  
たしを先へ進ませまいとした。  
いいえ、わたしはそうはさせなかった！  
神様から生れたわたしはまた神様のところへ  
行くのです。  
神様はきっとひとつの光をわたしに下さって、  
とこしえのよろこびの生命にまで、わたしを  
照らして下さるにちがいない。

## 第5楽章:

クロプシュトックの賛歌「復活」に従って

#### 合唱とソプラノ:

よみがえるだろう、わがちりよ、  
しばらくのいこいののちに、よみがえるだろう。  
お前を呼びたもうた主こそ、不滅の生命をお  
与え下さるのだ。  
ふたたび花咲くために、お前は種まかれたのだ！  
とりいれの主が来給いて、  
穀物の束なるわれら死者を  
とりいれ給う。

#### Altsolo:

O glaube, mein Herz, o glaube:  
Es geht dir nichts verloren!  
Dein ist, dein, was du gesehnt.  
Dein, was du geliebt, was du  
gestritten!

#### Sopransolo:

O glaube, du wardst nicht umsonst  
geboren.  
Hast nicht umsonst gelebt, gelitten!

#### Chor und Alt:

Was entstanden ist, das muss vergehen.  
Was vergangen, auferstehen!  
Hör auf zu beben! Bereite dich!  
Bereite dich zu leben!

#### Sopran-und Altsolo:

O Schmerz, du Alldurchdringer!  
Dir bin, o Tod! du Allbezwinger,  
ich entrungen!  
Nun bist du bezwungen!  
Mit Flugeln, die ich mir errungen,  
In heissem Liebesstreben werd ich  
entschweben  
Zum Licht, zu dem kein Aug gedrungen.

#### Chor:

Mit Flugeln, die ich mir errungen...  
Werde ich entschweben.  
Sterben werd ich, um zu leben!  
Auferstehn, ja auferstehn wirst du,  
mein Herz, in einem Nu!  
Was du geschlagen, zu Gott wird es  
dich tragen!

#### アルト独唱:

おお、かたく信ぜよ、わが心よ。  
わたしが何も失ってはいないことを！  
お前があこがれたもの、お前が愛したもの、  
お前が得ようとしたかったもの、  
それらはすべてお前のものなのだ。

#### ソプラノ独唱:

おお、信ずるのだ。わが心よ、お前はいたず  
らにこの世に生れて、  
無為に生き、苦しんだのではないということをし

#### 合唱とアルト:

生れ出たものは滅びなければならぬ、  
滅びたものはよみがえればならぬ！  
おののくことをやめよ！用意せよ！  
生きるための用意をせよ！

#### ソプラノとアルト独唱:

おお苦しみよ、すべてにしみ通る苦悩よ！  
おお 死よ、わたしはお前からのがれてる。  
すべての征服者であったお前から！  
いまこそお前は征服されたのだ！  
わたしはそのからえた翼をひろげて、  
燃ゆる愛の力をかりて  
舞いあがろう。  
いかなる目もとどかぬ光のもとに。

#### 合唱:

そのからえた翼をひろげて...  
わたしは舞い上がろう。  
よみがえるために、私は死ぬのだ！  
よみがえるだろう、心算よ、ただちにお前  
はよみがえるだろう！  
お前の波動が、神のもとにお前を運んで  
行くだろう！